

---

議題 企業会計基準委員会の最近の活動状況

項目 当期純利益に関する意見発信

---

## 2013 年 12 月開催 ASAF 会議に関する報告

ASBJ は、「純損益/OCI 及び測定」と題するアジェンダ・ペーパーを作成し、2013 年 12 月の ASAF 会議で本ペーパーについて議論がなされた。この ASBJ の見解に対して、IASB 及び ASAF メンバーからは、主に以下の意見が聞かれた。

(IASB ハンス議長)

- 優れたペーパーの提出に感謝する。すべての問題が解決し結論を得たわけではないが、議論が進んだと思う。ただし、より精緻な定義が特定できない限り、純損益について定義することを躊躇するし、個人的には純損益を精緻に定義することができるとは思わない。

(PAFA-南ア)

- そもそも OCI は不要ではないか。単一の利益概念とした上で、分解して開示することにより利用者に判断してもらうのがよいと考える。

(オーストラリア)

- 包括利益を表示しつつ、その分解情報を多く表示することによって有用な情報提供ができると考えており、そもそも OCI は不要という見解に同意する。仮に不可逆という概念に基づいて個別の基準を開発できたとしても、その合計値としての純損益に意味を見出せないのではないか。

(EFRAG)

- 財務業績といった観点から純損益を定義しようという ASBJ の取組みを支持するが、欧州でも定義を試みてうまくいかなかったこともあり、困難であることも認識している。ペーパーの考え方を改善する上で、ビジネス・モデルの概念が参考になりうるのではないか。

(中国)

- 純損益、包括利益及び OCI を財務諸表の構成要素として定義する点、すべての OCI 項目をリサイクリングする点で、ASBJ のペーパーを支持する。

## IASB のディスカッション・ペーパーにおける「純損益及びリサイクリング」に対する ASAF メンバーのコメント・レター (2014 年 1 月)

IASB のディスカッション・ペーパーに対する各 ASAF メンバーのコメント・レター(2014 年 1 月) で示された「純損益及びリサイクリング」についての見解は、次のとおりである<sup>1</sup>。

(イギリス)

- OCI 項目全てについてリサイクリングされる必要はなく、リサイクリングは、期間の事象について目的適合的な情報が提供される時に限って要求されるべきである。

(ドイツ)

- 純損益を合計又は小計として表示すべきであり、OCI 項目の全てがリサイクリングされるべきである。OCI 項目の決定は、長期の契約から生じた未実現損益で、契約の残存期間にわたって戻る可能性が合理的にあるものを出発点として検討できるのではないか。

(スペイン)

- 純損益を合計又は小計として表示すべきである。ただし、キャッシュ・フローヘッジのような例外を除き、収益又は費用を OCI に表示すべきでなく、リサイクリングも基本的にされるべきでない。

(オーストラリア)

- 概念フレームワークにおいて、純損益の表示を要求すべきでない。また、OCI 項目について、リサイクリングがされるべきでない。

(中国)

- 純損益を構成要素として定義するとともに、全ての OCI 項目についてリサイクリングが許容されるべきである。また、財務業績、OCI、包括利益の定義や範囲について概念的に整理がされるべきである。

(カナダ)

- 本来、概念フレームワークにおいて、財務諸表における特定の合計や小計を要求すべきでなく、長期的には、純利益と OCI を区分しない総合的な業績測定値

---

<sup>1</sup> 会計基準設定主体については、個別の名称に代えて国名を記載している。

が開発されるべきである。ただし、資産・負債について財政状態表示の観点からより目的適合性の高い測定が行われる場合、OCIを使用することを支持している。その場合、広いアプローチ(2B)をベースとしつつ、OCIに認識された項目については全てリサイクリングがされるべきである。

(米国)

- ディスカッション・ペーパーに対して、コメント・レターを送付していない。

(欧州財務報告諮問グループ)

- 概念フレームワークにおいて、純損益の表示を要求すべきである。また、リサイクリングによって純損益が目的適合的な情報とならなくなる場合を除き、全てのOCI項目について、リサイクリングされ得るとすべきである。

(アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ)

- 殆どのメンバーは純損益を財務諸表において表示すべきと考えている。多くのメンバーはOCI項目についてリサイクリングを行うべきと考えているが、リサイクリングを行うことを不適切と考えるメンバーもいる。

(ラテンアメリカ基準設定主体グループ (GLASS))

- 純損益を合計又は小計として表示すべきである。但し、アプローチ(2A、狭い範囲ですべてリサイクリング)と(2B、広い範囲でノンリサイクリングを含む)については、支持が分かれていた。

(全アフリカ会計士連盟<sup>2</sup>)

- 純利益を合計又は小計として表示すべきである。OCI項目について明確な原則が必要であるほか、最終的に処分又は決済される資産又は負債に関して、最低限、リサイクリングが許容されるべきである。

---

<sup>2</sup> 全アフリカ会計士連盟としてコメントレターを提出していないため、南アフリカ勅許会計士協会のコメントレターをベースに記載している。